



平成26年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年2月13日

上場会社名 株式会社ドワンゴ 上場取引所 東
 コード番号 3715 URL http://info.dwango.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 荒木 隆司
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員コーポレート本部長 (氏名) 小松 百合弥 (TEL) 03(3549)-6300
 四半期報告書提出予定日 平成26年2月14日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年9月期第1四半期の連結業績(平成25年10月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年9月期第1四半期	9,619	12.0	1,198	71.2	1,193	66.7	1,328	83.8
25年9月期第1四半期	8,586	△6.0	700	38.1	715	38.9	722	115.1

(注) 包括利益 26年9月期第1四半期 1,367百万円(88.1%) 25年9月期第1四半期 726百万円(85.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年9月期第1四半期	32.58	—
25年9月期第1四半期	17.71	—

(注) 当社は、平成25年10月1日付で普通株式1株につき200株の割合で株式分割を行いました。このため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当り純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年9月期第1四半期	30,223	21,502	70.9	526.09
25年9月期	28,853	20,736	71.7	506.95

(参考) 自己資本 26年9月期第1四半期 21,422百万円 25年9月期 20,684百万円

(注) 当社は、平成25年10月1日付で普通株式1株につき200株の割合で株式分割を行いました。このため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当り純資産」を算定しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年9月期	—	0.00	—	2,000.00	2,000.00
26年9月期	—	—	—	—	—
26年9月期(予想)	—	0.00	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は、平成25年10月1日付で普通株式1株につき200株の割合で株式分割を行っておりますが、平成25年9月期につきましては、当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。

3. 平成26年9月期の連結業績予想(平成25年10月1日～平成26年9月30日)

(%表示は、通期は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	42,251	17.5	3,165	48.5	3,224	40.6	2,463	8.4	60.44

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

26年9月期1Q	40,810,400株	25年9月期	40,810,400株
26年9月期1Q	89,800株	25年9月期	8,600株
26年9月期1Q	40,761,993株	25年9月期1Q	40,801,800株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

(注) 1 当社は、平成25年10月1日付で普通株式1株につき200株の割合で株式分割を行いました。このため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、発行済株式数 (普通株式) を算定しております。

2 当社は、株式給付信託型ESOPを導入しております。株式給付ESOP信託口が所有する当社株式は、自己株式に含めて記載しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものです。予想には様々な不確実性が内在しており、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合がありますので、この業績予想に全面的に依拠して投資等の判断を行うことは差し控えてください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	7
追加情報	7
3. 四半期連結財務諸表	8
(1) 四半期連結貸借対照表	8
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	10
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	10
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	11
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	12
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	13
(継続企業の前提に関する注記)	13
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	13
(セグメント情報等)	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(平成25年10月1日～平成25年12月31日)における我が国経済は、政府及び日本銀行の政策により、企業収益や個人消費に改善の動きが見られるなど、景気回復への動きが見え始めております。

当社グループ(当社、連結子会社および持分法適用関連会社)を取り巻く環境は、スマートフォンの普及が進み、様々なタブレット端末が発売され、通信機能を備えたデバイスの進化と多様化が進んでおります。それに伴い、SNSや動画配信サービス、電子書籍などの利用も広がり、新たなアプリやサービスも次々と登場し、スマートフォン関連の市場は拡大しております。

このような環境の中、当社グループにおきましては、ネットワークを通じた新しいコミュニケーション手段を提供すべく、ネットワークエンタテインメントサービス・コンテンツをスマートフォン、携帯電話、PC、家庭用ゲームソフト市場などで事業展開してまいりました。

事業セグメント別の業績は以下のとおりであります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、株式会社MAGES.の株式を取得したことにより、同社が新たに連結の範囲に加わっております。

ポータル事業においては、ニコニコ生放送では、ディズニーの番組配信が始まった他、落語会「十一代 桂文治ネット独演会」の模様の中継や「第26期竜王戦七番勝負」の完全生中継、「ニコニコ年越し! 小林幸子カウントダウンLIVE～オープニングアクト: ダイオウグソクムシ～」など、ニコニコ生放送ならではの他のメディアにはない番組を配信しました。

また、ニコニコチャンネルにて、「ブロマガ」を配信しているチャンネルの有料登録者数が、10月に合計10万人を突破しました。ニコニコチャンネルは、企業・団体が動画や生放送の配信ができるプロモーション・プラットフォームでしたが、一般ユーザ向け専用プラットフォームとして、チャンネル開設者が動画投稿、生放送配信、ブログ投稿、月額課金機能が利用できる「ユーザーチャンネル」のサービスを開始しました。

平成25年12月末の登録会員数は3,758万人、様々な特典が受けられる有料の「プレミアム会員」は217万人となり、「プレミアム会員」の増加が収益に貢献しております。

以上の結果、ポータル事業の売上高は44億22百万円(前年同期比16.9%増)、セグメント利益(営業利益)は7億57百万円(前年同期比4.2%減)となりました。

モバイル事業においては、スマートフォン向けでは高音質楽曲配信サービス「dwango.jp」に、人気グループの最新シングルの独占先行配信だけでなく、niconicoの人気ボカロ楽曲など当サービスならではの楽曲を充実させ、サービス拡充に取り組みました。

従来の携帯電話端末向けには、音楽系サイトの着うた[®]や着うたフル[®]を中心にユーザ満足度向上に努めましたが、スマートフォンへの移行の影響を受け会員数は減少し、著作権等使用料も減少しました。

以上の結果、モバイル事業の売上高は30億13百万円(前年同期比13.9%減)、セグメント利益(営業利益)は5億33百万円(前年同期比402.7%増)となりました。

ゲーム事業においては、据置型や携帯型ゲーム機の家庭用ゲーム市場は厳しい状況が続いております。その中において、自社パッケージソフトで10月に発売した「ダンガンロンパ1・2 Reload」が堅調に推移した他、12月に発売した「進撃の巨人～人類最後の翼～」が好調に推移しました。

以上の結果、ゲーム事業の売上高は17億38百万円(前年同期比83.3%増)、セグメント利益(営業利益)は4億16百万円(前年同期比239.1%増)となりました。

ライブ事業においては、関西では初の開催となる「ニコニコ町会議in大阪なんば」を追加開催しました。ライブハウス「ニコファーレ」では、「ニコニコ年越し! 小林幸子カウントダウンLIVE オ～プニングアクト: ダイオウグソクムシ～」を開催、ニコファーレの映像技術を用い、豪華衣装を創作しネットライブならではの演出を行いました。その他、各種イベント向けにホールの貸出なども行いました。

以上の結果、ライブ事業の売上高は1億4百万円（前年同期比4.2%増）、セグメント損失（営業損失）は1億55百万円（前年同期は88百万円の損失）となりました。

その他事業においては、主にアニメ分野やniconicoから生まれたコンテンツのCDやDVDなどの音楽出版及び著作権利用料収入が売上に貢献しました。

以上の結果、その他事業の売上高は4億80百万円（前年同期比1.8%減）、セグメント損失（営業損失）は39百万円（前年同期は42百万円の損失）となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高96億19百万円（前年同期比12.0%増）、営業利益11億98百万円（前年同期比71.2%増）、経常利益11億93百万円（前年同期比66.7%増）、四半期純利益は13億28百万円（前年同期比83.8%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は302億23百万円（前連結会計年度末より13億70百万円増）となりました。新規連結によるのれんの計上等により、資産が増加しました。

負債合計は、87億21百万円（前連結会計年度末より6億3百万円増）となりました。新規連結に伴う短期借入金の増加等により、負債が増加しました。

純資産合計は、215億2百万円（前連結会計年度末より7億66百万円増）となりました。四半期純利益13億28百万円に伴う利益剰余金の増加等により、純資産が増加しました。

②キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ6億3百万円増加し、92億96百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益の増加等により、前第1四半期連結累計期間と比べ8億72百万円増加し、18億14百万円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出等により、前第1四半期連結累計期間と比べ3億10百万円支出が増加し、6億44百万円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、自己株式の取得による支出の増加等により、前第1四半期累計期間と比べ、1億10百万円支出が増加し、5億66百万円の支出となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年9月期の連結業績見通しにつきましては、当社グループを取り巻く事業環境の変化は早く、それに伴い当社の業績も短期的に大きく変動することも想定されることから通期業績のみを開示することとしております。なお、株式会社MAGES.を、平成26年9月期第1四半期連結累計期間より連結範囲に含めることになりましたので、平成26年2月13日に公表しております「業績予想の修正に関するお知らせ」のとおり、売上高422億51百万円（前期比17.5%増）、営業利益31億65百万円（前期比48.5%増）、経常利益32億24百万円（前期比40.6%増）、当期純利益24億63百万円（前期比8.4%増）を見込んでおります。

ポータル事業におきましては、niconicoにおけるプラットフォームの機能開発・改善により、ユーザビリティの向上や新しい使い方の提案をするだけでなく、スマートフォンを始めとした各種デバイスへの積極的な対応も行っています。また、ニコニコ生放送を中心に、コンテンツ制作の最適化及び強化を図り、niconicoならではの番組配信に取り組みます。これらにより、これまで以上にユーザやコンテンツホルダーが満足するサービスを提供し、メディアとしての認知度向上を図りながら、広告収入の増加や、新たな課金サービスの投入などにより、収益の拡大を図ってまいります。

モバイル事業におきましては、スマートフォン会員を獲得するために、高音質楽曲配信サービス

「dwango.jp」において、人気楽曲の獲得やniconico系コンテンツの拡充などの差別化を行っていきます。さらに、効果的なプロモーションにより、スマートフォン会員を獲得していきます。

ゲーム事業におきましては、当社グループ会社が開発したシリーズタイトルや、海外タイトルの国内向け販売、他社からの受託開発、優良コンテンツを保有する他社とのソフトの企画・開発などを引き続き行ってまいります。また、スマートフォンなどのプラットフォームを利用したソーシャルゲームにも取り組んでまいります。

ライブ事業につきましては、ニコニコ超会議やニコニコ町会議を通じて、niconicoのコンテンツをリアル場で体感することで、来場したユーザが満足しロイヤリティが高まるイベントにしていきます。

ニコファーレにおいては、コンサートだけではなく多種多様なイベントを開催するなど、ニコファーレの特色を活かし、イベント施設としても貸し出していきます。

なお、上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の実績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

(参考情報)

当第1四半期連結業績

〔売上構成〕

(金額：百万円)

	前第1四半期 (売上比)	当第1四半期 (売上比)	前連結会計年度 (売上比)	当第1四半期の主な変動要因
売上高	8,586	9,619	35,946	
ポータル事業	3,782 (44.1%)	4,422 (46.0%)	16,044 (44.6%)	niconicoのプレミアム会員数が増加したことによります。
モバイル事業	3,499 (40.8%)	3,013 (31.3%)	13,313 (37.0%)	月額会員制サイトの会員数が減少したことによります。
ゲーム事業	948 (11.0%)	1,738 (18.1%)	4,136 (11.5%)	パッケージゲームの大型タイトルの発売により販売本数が増加したことによります。
ライブ事業	100 (1.2%)	104 (1.1%)	1,153 (3.2%)	
その他事業	489 (5.7%)	480 (5.0%)	1,908 (5.3%)	
消去又は全社	△233 (△2.7%)	△139 (△1.5%)	△610 (△1.7%)	

〔売上原価主要科目〕

(金額：百万円)

	前第1四半期 (売上比)	当第1四半期 (売上比)	前連結会計年度 (売上比)	当第1四半期の主な変動要因
売上原価	4,590 (53.5%)	4,941 (51.3%)	20,432 (56.8%)	
人件費	1,452 (16.9%)	1,334 (13.8%)	5,615 (15.6%)	
支払手数料	414 (4.8%)	654 (6.8%)	2,480 (6.8%)	niconicoのコンテンツ獲得が増加したことによります。
著作権等使用料	1,026 (12.0%)	807 (8.3%)	3,776 (10.5%)	着うた®・着うたフル®のダウンロードが減少したことによります。
外注費	828 (9.7%)	1,388 (14.4%)	4,038 (11.2%)	生放送制作費の増加及びパッケージゲームの販売タイトルが増加したことによります。
通信費	693 (8.1%)	682 (7.0%)	2,750 (7.6%)	
その他	626 (7.3%)	488 (5.2%)	2,428 (6.8%)	
たな卸資産の増減	△102 (△1.2%)	△378 (△3.9%)	△487 (△1.3%)	開発途中のパッケージゲームのタイトルが増え、仕掛品が増加したことによります。
(他勘定振替)	△350 (△4.1%)	△34 (△0.3%)	△169 (△0.4%)	

〔販売費及び一般管理費主要科目〕

(金額：百万円)

	前第1四半期 (売上比)	当第1四半期 (売上比)	前連結会計年度 (売上比)	当第1四半期の主な変動要因
販売費及び 一般管理費	3,295 (38.4%)	3,478 (36.1%)	13,382 (37.2%)	
広告宣伝費	1,409 (16.4%)	1,305 (13.5%)	5,025 (13.9%)	モバイル事業の広告が減少したことにより ます。
人件費	597 (7.0%)	730 (7.5%)	2,415 (6.6%)	
支払手数料	775 (9.0%)	907 (9.4%)	3,604 (10.0%)	niconicoのプレミアム会員増加に伴い増加 したことです。
研究開発費	96 (1.1%)	38 (0.3%)	292 (0.8%)	
その他	416 (4.8%)	498 (5.1%)	2,046 (5.9%)	

※当第1四半期末の従業員数（連結）は、1,079名となり、前第1四半期末より70名増加しており、前連結会計年度末より151名増加しております。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

追加情報

（株式給付信託型ESOPの会計処理について）

当社は、当第1四半期連結会計期間より、「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第30号 平成25年12月25日）を早期適用しております。

当社は当社グループ従業員の労働意欲や経営参画意識の向上を促すとともに、会社への貢献を従業員が実感できる報酬制度の導入を目的として、平成25年11月14日開催の取締役会において、従業員インセンティブ・プラン「株式給付信託型ESOP」（以下「本制度」といいます。）の導入を決議いたしました。

当社が当社グループ従業員のうち一定の要件を充足する者を受益者として、当社株式の取得資金を拠出することにより信託を設定します。当該信託は予め定める株式給付規程に基づき当社従業員に交付すると見込まれる数の当社株式を株式市場において取得します。

本制度は、予め当社が定めた株式給付規程に基づき、一定の要件を満たした当社グループ従業員に対し当社株式を給付する仕組みです。

当社は、株式給付規程に従い、当社グループ従業員に対し業績貢献度等に応じてポイントを付与し、在職時に（累積した）ポイントに相当する当社株式を無償で給付します。

当該信託については、信託の資産及び負債を企業の資産及び負債として、貸借対照表に計上し、信託の損益を企業の損益として損益計算書に計上する方法（総額法）を適用しております。

なお、当第1四半期連結会計期間末に株式給付ESOP信託口が所有する当社株式は、総額法の適用により四半期連結貸借対照表の純資産の部に自己株式として表示しており、計上額は72,897千円、株式数は28,200株であります。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,697,504	9,301,160
受取手形及び売掛金	6,322,457	5,705,024
商品及び製品	120,315	159,626
仕掛品	1,091,474	1,946,198
貯蔵品	1,844	3,377
その他	2,065,410	1,942,896
貸倒引当金	△1,423	△5,593
流動資産合計	18,297,582	19,052,690
固定資産		
有形固定資産	2,258,403	2,369,522
無形固定資産		
のれん	773,927	1,258,639
ソフトウェア	1,708,132	1,695,123
その他	2,004	35,802
無形固定資産合計	2,484,064	2,989,565
投資その他の資産		
投資有価証券	4,645,380	4,280,123
その他	1,380,856	1,744,679
貸倒引当金	△212,702	△212,702
投資その他の資産合計	5,813,535	5,812,100
固定資産合計	10,556,003	11,171,189
資産合計	28,853,586	30,223,879
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,871,705	2,051,141
短期借入金	—	500,000
1年内償還予定の社債	—	16,680
未払法人税等	210,052	209,341
賞与引当金	558,317	243,310
ポイント引当金	28,901	32,822
株式給付引当金	—	72,897
資産除去債務	23,078	24,318
その他	4,675,102	4,746,137
流動負債合計	7,367,157	7,896,649
固定負債		
社債	—	8,300
資産除去債務	332,790	387,394
その他	417,566	429,048
固定負債合計	750,357	824,742
負債合計	8,117,514	8,721,392

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,616,302	10,616,302
資本剰余金	9,089,327	8,681,309
利益剰余金	378,062	1,706,228
自己株式	△5,636	△198,525
株主資本合計	20,078,055	20,805,314
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	606,368	617,339
その他の包括利益累計額合計	606,368	617,339
少数株主持分	51,647	79,833
純資産合計	20,736,071	21,502,487
負債純資産合計	28,853,586	30,223,879

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
四半期連結損益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成24年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成25年12月31日)
売上高	8,586,512	9,619,227
売上原価	4,590,801	4,941,950
売上総利益	3,995,710	4,677,277
販売費及び一般管理費	3,295,452	3,478,599
営業利益	700,258	1,198,677
営業外収益		
受取利息	394	33
受取配当金	1,750	1,500
持分法による投資利益	2,837	—
為替差益	3,260	17,640
業務受託料	4,863	2,102
投資事業組合運用益	—	579
その他	6,300	4,160
営業外収益合計	19,406	26,016
営業外費用		
支払利息	762	385
持分法による投資損失	—	30,477
投資事業組合運用損	2,725	—
その他	275	602
営業外費用合計	3,763	31,465
経常利益	715,901	1,193,228
特別利益		
投資有価証券売却益	—	45,456
投資有価証券償還益	—	38,671
段階取得に係る差益	—	327,619
特別利益合計	—	411,748
特別損失		
ゴルフ会員権評価損	5,810	—
特別損失合計	5,810	—
税金等調整前四半期純利益	710,091	1,604,976
法人税、住民税及び事業税	72,303	211,791
法人税等調整額	△87,833	36,833
法人税等合計	△15,529	248,624
少数株主損益調整前四半期純利益	725,620	1,356,352
少数株主利益	3,039	28,186
四半期純利益	722,581	1,328,165

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成24年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	725,620	1,356,352
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△116	10,970
為替換算調整勘定	1,453	—
その他の包括利益合計	1,336	10,970
四半期包括利益	726,957	1,367,322
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	723,921	1,339,136
少数株主に係る四半期包括利益	3,035	28,186

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成24年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成25年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	710,091	1,604,976
減価償却費	343,122	374,628
のれん償却額	67,866	77,232
段階取得に係る差損益(△は益)	—	△327,619
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△8,031	4,051
賞与引当金の増減額(△は減少)	△269,203	△317,979
株式給付引当金の増減額(△は減少)	—	72,897
受取利息及び受取配当金	△2,144	△1,533
支払利息	762	385
持分法による投資損益(△は益)	△2,837	30,477
投資事業組合運用損益(△は益)	2,725	△579
投資有価証券売却損益(△は益)	—	△45,456
投資有価証券償還損益(△は益)	—	△38,671
ゴルフ会員権評価損	5,810	—
売上債権の増減額(△は増加)	5,953	871,367
たな卸資産の増減額(△は増加)	△109,839	△383,795
仕入債務の増減額(△は減少)	△107,178	△172,032
未払金の増減額(△は減少)	237,345	△482,118
その他	397,499	755,816
小計	1,271,940	2,022,045
利息及び配当金の受取額	21,664	1,533
利息の支払額	△762	△385
法人税等の支払額	△350,488	△208,225
営業活動によるキャッシュ・フロー	942,353	1,814,967
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△179,684	△389,019
無形固定資産の取得による支出	△282,257	△159,124
投資有価証券の取得による支出	—	△101,800
投資有価証券の売却による収入	20,000	277,942
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△159,372
貸付金の回収による収入	125,909	937
差入保証金の差入による支出	—	△129,097
差入保証金の回収による収入	—	14,123
その他	△17,853	892
投資活動によるキャッシュ・フロー	△333,885	△644,518
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△45,354	—
リース債務の返済による支出	△1,229	△2,564
自己株式の取得による支出	—	△207,365
配当金の支払額	△409,446	△356,862
財務活動によるキャッシュ・フロー	△456,029	△566,791
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	152,438	603,656
現金及び現金同等物の期首残高	6,159,325	8,692,504
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,311,764	9,296,160

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	ポータル 事業	モバイル 事業	ゲーム 事業	ライブ 事業	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	3,661,241	3,499,427	948,366	94,192	8,203,228	383,283	8,586,512	—	8,586,512
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	121,133	276	—	6,181	127,592	105,735	233,327	△233,327	—
計	3,782,374	3,499,704	948,366	100,374	8,330,820	489,018	8,819,839	△233,327	8,586,512
セグメント利益 又はセグメント 損失(△)	790,343	106,208	122,801	△88,626	930,728	△42,119	888,608	△188,350	700,258

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、コンテンツ出資等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△188,350千円は、セグメント間取引消去115,655千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△304,005千円であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	ポータル 事業	モバイル 事業	ゲーム 事業	ライブ 事業	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	4,316,927	3,013,146	1,734,052	104,557	9,168,683	450,544	9,619,227	—	9,619,227
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	105,881	27	4,314	38	110,262	29,695	139,957	△139,957	—
計	4,422,808	3,013,173	1,738,367	104,595	9,278,945	480,239	9,759,185	△139,957	9,619,227
セグメント利益 又はセグメント 損失(△)	757,195	533,914	416,381	△155,028	1,552,463	△39,430	1,513,032	△314,354	1,198,677

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、コンテンツ出資等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△314,354千円は、セグメント間取引消去172,447千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△486,802千円であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

当第1四半期連結累計期間に株式会社MAGES.の株式を追加取得し、のれんが発生しております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第1四半期連結累計期間においては、「ゲーム事業」で228,615千円、「ライブ事業」164,526千円、「その他」で168,802千円です。